

La Vida
www.lavida.co.jp

ラ・ビーダ

〒963-0541 福島県郡山市喜久田町堀ノ内字地田東15-2
TEL:024-959-3333 FAX:024-959-3725
e-mail: info@lavida.co.jp

100年使える椅子
aチェア



デンマークの生協の椅子。
質も、使い勝手も、値段も、真っ当。
たとえば日本で、そんな椅子。



目指すは日本の椅子のスタンダード。 安価で、真っ当な、誰もが使い継げる椅子を。

70年前、デンマーク生活協同組合 (FDB) から、デザイナーのボーエモーエンセンのデザインによって生まれた椅子J-39は、身近な素材とシンプルなデザイン、入手しやすいコストパフォーマンスを備え誕生しました。モーエンセンが誰もが使える安価な椅子としてデザインしたJ39のように、現代の日本で誰もが長く愛着を持って使えるようにとの思いでデザインされた「aチェア」。デザインする上で、ラビーダが最もこだわったことはコストパフォーマンスです。いかに安価で、真っ当な椅子を作るか。モーエンセンの作ったJ39のコンセプトも同じだったのですが、2014年現在、復刻されている現行品のものの価格は50,000円以上、当時製作

されたビンテージのものになると70,000円前後の値段になってしまいます(ビンテージの値段はだいたいこの相場です)。

なるべく手軽な値段で、一生モノの椅子を作ることにはできないだろうか。そんなチャレンジシップをもって作られた椅子が、私たちの「aチェア」です。背もたれ、座面、構造と多くの工夫が凝らされた「aチェア」。ビンテージの家具を多く扱い、経年による変化を長く見て来たラ・ビーダが研究を重ね、的確かつ最小限の構造で耐久性とデザイン性をクリアするにいたりました。さらに高い技術を実現するため、ラビーダでは国内製造にこだわっています。結果、品質と価格の安定が実現しました。

【写真左:「aチェア」(2008年)】

【写真右:J-39(1939年)】

ボーエモーエンセンの作。質・デザインともに評価が高く、現在も製造され続けている名品です。当時はFDB(デンマーク生協)によるコストパフォーマンスに優れた庶民向けの椅子として販売されました。

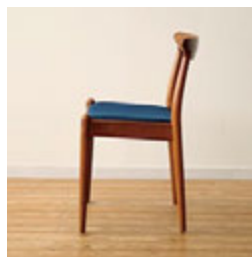
【コンセプト】

デンマークの椅子に倣いながら、
日本人の体と生活に沿った意匠。

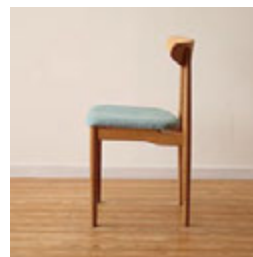
「aチェア」がデザインされたのは2008年。形を参考にした椅子は50年以上前の3脚の北欧の椅子です。左から、ウェグナーのW1、「aチェア」、製作者不明のビンテージの椅子、ウェグナーのCH-33です。



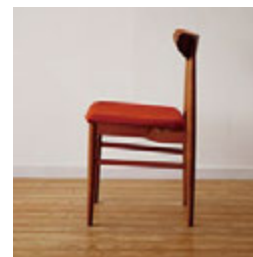
「aチェア」の座面の裏には4つの隅木が入っています。
左から、W1、「aチェア」、製作者不明のビンテージ、CH33の座面の裏です。
隅木が入っているのはW1と「aチェア」だけです。



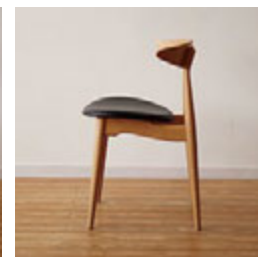
【ウェグナー：W1】
脚部と座面の構造を参考にしました。



【aチェア】



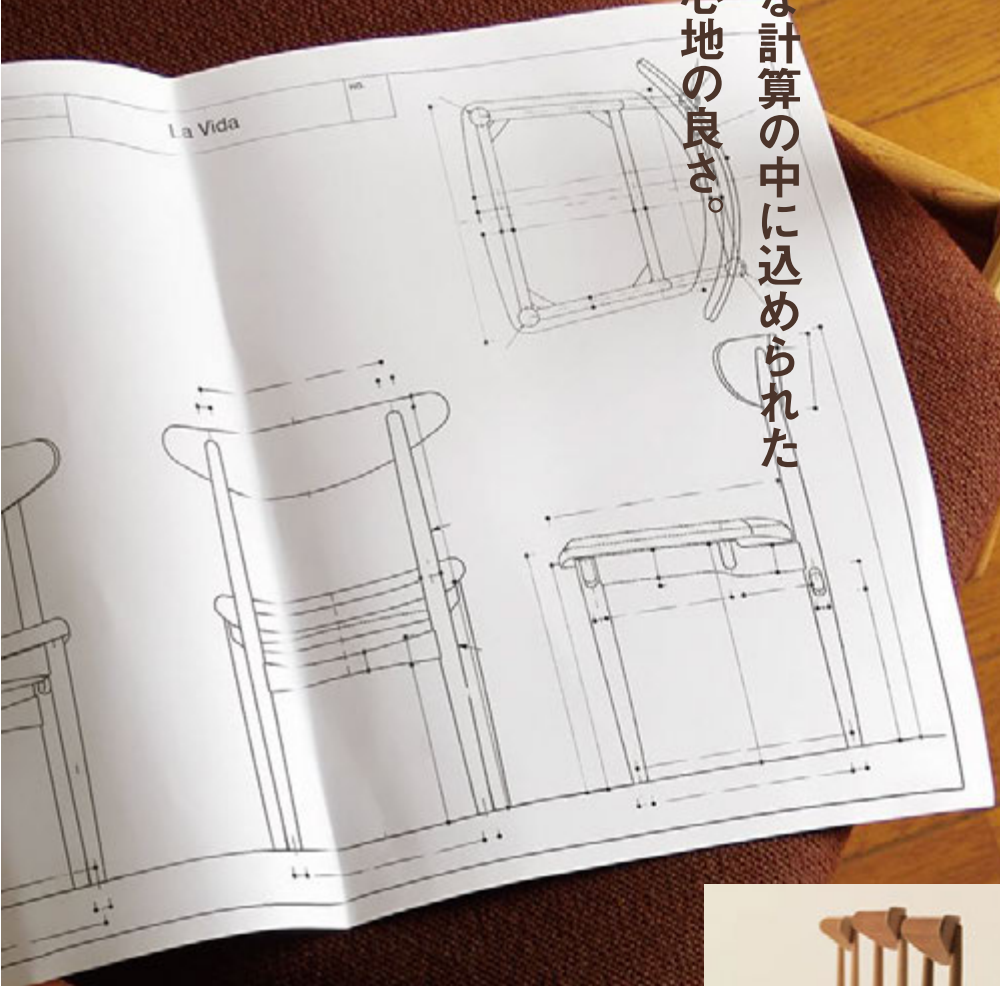
【製作者不明ビンテージ】
付まいや経年変化による構造の劣化具合を参考にしました。



【ウェグナー：CH33】
カールハンセン社によって現行品が今でも作られています。作りが「aチェア」に近く、フォルムが美しい椅子です。

【比較】

綿密な計算の中に込められた
座り心地の良さ。

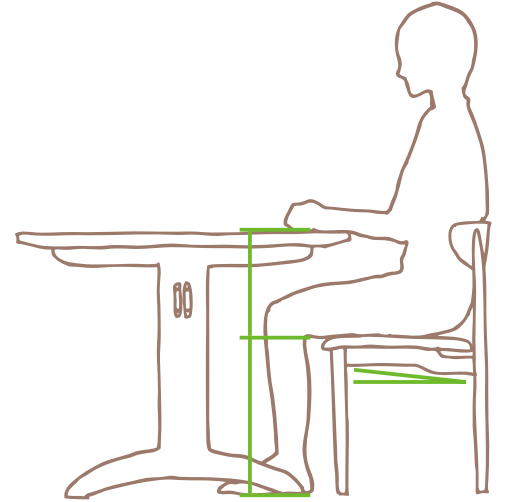


どこから見ても自然なフォルム、 違和感のない使い心地。

日々の生活の中で、ごく当たり前に使われる〈日常の用具〉としての椅子は、使う場と人との間で空気のようになじむものがある。どこにあっても、しっかりと調和するさりげない美しさ。誰が使っても、長く座っても、存在を主張しない、違和感のない心地よさ。五感をとおして知らず知らずこころをいやす、天然の質感。そして、普段使いにちょうどいい、求めやすい価格。そんな理想の〈何気なさ〉を、ていねいに、ていねいに探して見つけた一つの答えが、この椅子に込められています。

例えば、座面の傾斜は、軽い休息と作業の併用に適した角度。ダイニングにもデスクにも使い回せる自由な使い勝手を体現しています。

背もたれの高さは、専用のモックアップを使って数ミリ単位で調整するなど、幾度も試作を重ね、各部位の高さや位置、全体のボリュームからディテールの微細なフォルム、仕上げの質感に至るまで、原寸大の模型で実際に見て、触れて、座ってみながら確認し、デザインを決めています。



【快適さ】

コストを抑えて、より美しく。
試行を重ねて生まれ変わった
背もたれについて。

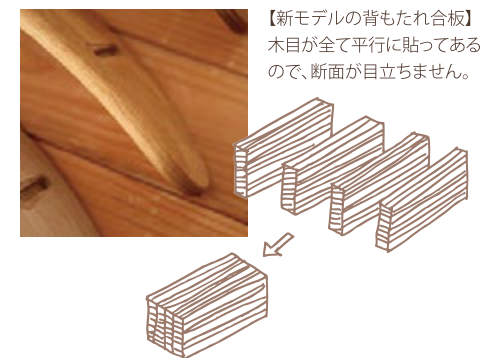
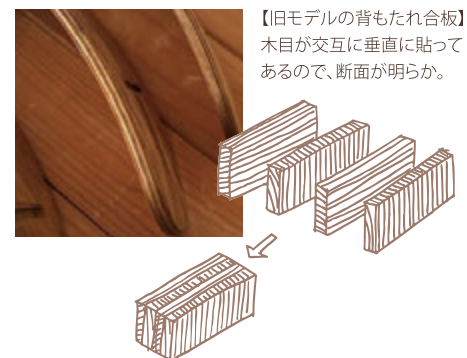
ウェグナーのW1の背もたれは無垢材で出来ています。
下の写真の左側がW1本体、右側が背もたれを作るために
必要な木材の大きさです。多くの木材が削りかすとして
ゴミになってしまいます。



合板で、無垢材の快適さに近づける努力。

「aチェア」の背もたれは合板製です。無垢材を削り出した方が、三次元的な曲面を作ることができるので快適性はあがりますが、材料と手間が多くなってしまいます。また無垢材のため重量も出てしまいます。「aチェア」の目指すところは、快適な座り心地と、バランスのとれた価格。合板を使って無垢材の座り心地に近づける努力をしました。今まで作った背もたれのサンプルは十種類以上です。

旧モデルは、芯材はビーチ材、表面はナラ材の突き板を張っています。また木材の木目を交互に張っていたので、断面が明らかに合板だとわかってしまう構造でした。今回より質感を改善するため、背もたれをリニューアルしました。積層する材は全てナラ材、木目も平行張りに。これにより一見すると無垢材のような表情になります。



【進化】

100年使い続けるための
強度と形状を求めた
真摯な構造。

↑
【雇い核(ざね)】
背もたれと背柱を頑丈につなぐ、接ぎの技法です。

隅木と貫(ぬき)は、座面の曲線に沿っていて、しっかりと座面を支える構造になっています。

「aチェア」の座面は必要最小限の奥行きになっています。背もたれに沿ったカーブとも相まって、無駄なく扱いやすい、美しい仕上がりです。



4ヶ所の隅木

座面は体の曲線にフィットするように柔らかな曲面になっています。そのため隅木をいれるためには座面に沿うようにひとつひとつ削り出す必要がありました。コストがかかるため、多くの椅子では隅木をいれないことが多かったようですが、耐久性に差がでできます。また隅木を入れることにより、座面の取り外しが容易になり木部を傷めにくくメンテナンスできます。現代、隅木の曲面は機械によって高精度に削り出すことが出来るようになりました。そのため隅木と座面の密着度も隙間無く仕上がり、耐久性能もあがりました。

脚部の貫(ぬき)

「aチェア」ではおよそ100年もつ構造を想定しています。そのためには貫が座面を直接支える構造にする必要がありました。隅木のところでも述べましたが、座面には緩やかな曲面がついています。50年前であれば、座面と隙間のない貫を作るために手作業で一つ一つ削り出す必要がありました。「aチェア」の貫の構造も、技術革新により安定した生産が実現したといえます。

背もたれのジョイント

背もたれを支える構造は雇い核(やといざね)という技法を使っています。面で支えることができるため、木ダボでジョイントするよりも頑丈に接合することが出来ます。多くの椅子では背もたれを固定するために、直接金属のビスを打ってしまうことが多いです。そのため、ネジ頭を隠すため丸い木材が背もたれに埋め込まれています。「aチェア」では、ビスを使用しないため表面にそのようなネジ隠しはありません。なるべく自然な木目を傷つけないことのないようにと試行錯誤した結果、雇い核の技法にたどり着きました。

左がCH33。ビスを隠すための丸い木材が埋め込まれています。右の「aチェア」にはそのような痕がなく、木目が傷つくことなく美しいまま保たれています。



【構造】



造作の良い椅子は、
張り地を替えて使い継ぐ。
愛着あるものと
長くつきあう喜び。

使い継ぎ、つなげてゆく工夫と責任。

ラ・ビーダでは、販売後の家具の修理から買取・再販までを一環して行なっています。もちろん、使い続けて座面の傷んだ椅子の張替えも。

「aチェア」には、座面の生地張替えを、より容易に、そして美しく行うために、構造の工夫がいくつも施されています。生地を張り替えれば、愛着ある

椅子と、また新たなつきあいが始まり、次へとつながっていきます。

良い家具と出会い、長く生涯をともにしていただく。ラ・ビーダが考える「家具屋の責任」のかたちは、「aチェア」のプロダクトにも脈々と引き継がれています。

引き取り・買い取りサービス

皆様のお宅に、お使いにならないラ・ビーダ製品がありましたら、ご連絡ください。使用年数や状態など、詳細を確認させていただき、お引き取り・買い取りのご相談に応じます。

【対象】

ラ・ビーダの製品（※造作家具など除外品あり）

【つなげる】

布のお手入れ

普段のお手入れ

掃除機などでホコリを取り除いてください。

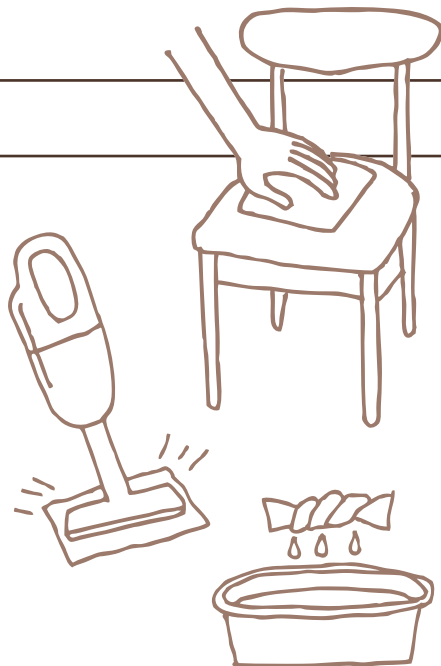
汚れがいたら

1: 固く絞ったタオルで汚れた部分を叩き、その後乾いたタオルで同様に汚れた部分を叩きだします。

2: 固く絞ったタオルを汚れた場所に置き、タオルの上から掃除機で吸い込みます。

(汚れがタオルへ移動します。)

3: タオルを洗い、汚れがなくなるまで繰り返します。



防水ワックス(TAPIR/タピール)

ご使用前に布用防水ワックスをしますと汚れがつきにくくなります。

1: 瓶をよく振って成分を均一にします。

2: ワックスを少量スポンジにとり、布にまんべんなく染みこむように伸ばします。

3: よく乾かします。

(TAPIRは、ラ・ビーダ店頭で販売しています)



座面のお手入れ、知っておけば、もっと長持ち。

革のお手入れ

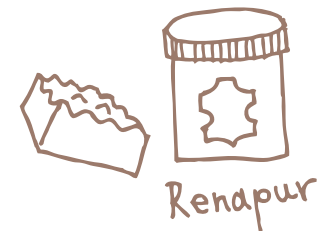
普段のお手入れ

乾拭きし、ホコリをとりのぞいてください。

2ヶ月に一度

乾拭きをし表面のホコリを取除いたあと、ラナパーをスポンジに少量取り薄くのばしてください。

(ラナパーは、ラ・ビーダ店頭で販売しています)



汚れが気になる時

1: 硬く絞った雑巾で全体を拭きます。

2: オリーブ石けんをスポンジで泡立たせ、革の表面を洗います。

3: 固く絞った雑巾で泡(洗剤)を取り除いていきます。

4: 乾いた雑巾で乾拭きし、乾燥させます。

5: 十分に乾燥したら、ラナパーをスポンジに少量取り薄くのばしてください。



【メンテナンス】